

いただいた話や資料をじっくり見返したいと思います。

- ・今までH I Vはすごく怖い病気であり、1回かかっただけで制限された生活になってしまうと思っていたが、きちんと適切な治療を受けることにより、性活動もできるまでになると知って驚いた。自分が持っていたH I Vの知識は間違いであり、偏見だったと感じた。
- ・性的話について、しっかりと講演を聞いたことがなかったので勉強になりました。視野の狭さに気づかされました。またエイズの治療についてもしっかりと正しい知識を身につけておく必要があることを改めて感じました。
- ・普段「人権」とは言いながら気づけていなかった、考えられていなかったと思いました。それが人権侵害につながっていると思った。
- ・独特な講義でした。でも、自分が男か女かなんて考えたこともなく当たり前にならな女として生きてきたなど性について考える機会になりました。患者さんに対しても男か女かという視点でしたが、細分化すると実はたくさんのパターンがあり、日頃疑問にも思わずに仕事をしてきたなど気付かされました。
- ・今まで性について深く考えたことがなかった。性別も様々であることや性別が56もあるなんて驚いた。多様性について考えさせられた。
- ・「男と女」性別について意識が薄かったことを自覚した。何の気なく使用していた性別欄、フェースシートの在り方を見直したい。コミュニティの中でセクシャリティ、HIV/AIDSの課題に対して考えていきたい。
- ・HIV/AIDSの話の前にセクシャリティについて理解を深めさせていただき、ソーシャルワークの中で大切にしたい部分について考えていくことができました。



- ・「性って一体なんだろうか…」私は女だと思って生きてきたけれど、それはどう証明するの？女って何だろう、と気付かされました。私たちが日々出会う人達にも社会的な性別で当てはめているが、それは違ったんだと思うと本当に社会の中で傷ついている人達がいるんだと思いました。そのことを理解していくこと、本当

のソーシャルワーカーは何をする人かということにすごく感じました。私はソーシャルワーカーになりきれていないと思います。

- ・H I Vの知識が昔の古いままだった。最新の治療状況が聞けて勉強になった。
- ・「私の性は私が決める」という言葉が印象的でした。目の前に人がいた時に、あまりにも考えもせず、男性、女性と決めていた自分がいかに浅はかかと思いました。目の前にいる人のありのままを理解することに留意しないと、と思いました。また、知識のなさを実感しました。

### ～HIV 検査普及啓発街頭キャンペーンに参加して～



平成30年6月3日(日)に郡山市保健所主催のH I V検査普及啓発街頭キャンペーンが郡山駅前で行われ、福島県医療ソーシャルワーカー協会もボランティアとして参加しました。高校生、看護学生と共にグループを作り、アンケートと啓発グッズの配布を行いました。

当日は炎天下の中での活動でしたが、老若男女問わず声をかけ、アンケート記入に協力していただきました。中々足を止めてくれる方が少なく苦労しました。アンケートに答えてくれた方の中でH I Vの「言葉は知っているが詳しくはわからない」や「死ぬ病気」などH I Vへの理解についてはまだまだであると感じました。